

ミシガン大学歯学部訪問

う蝕学分野助教 金子 友厚

ミシガン大学歯学部への訪問は、1度目は、2004年から2006年までの2年間ティーチングスタッフとして、2度目は、2008年に一週間あまり、フロリダでの組織学会の途中に寄ったことがあり、今回がこれで3度目である。ミシガン大学は、ほとんどの名門大学が私立大学である米国においてはめずらしい州立大学である。米国で最も危険な都市と言われるミシガン州デトロイトに近い、アナーバーという町にあり、デトロイトメトロポリタン空港から車でおよそ30分である。アナーバー自体は、大学を中心に発展している町のため、治安はかなり良い。ミシガン大学のアメフト部は、とても強く人気があり、試合になると“Go

blue”という旗をもった人々が、ミシガン州中から応援に集まってくる。チケットは高く200ドル近い席もある。ミシガン大学歯学部（図1）は、医学部に程近い、もっともにぎやかなセントラルキャンパス（図2）の一角あり、全米有数のN.I.H. 研究費獲得実績を誇る。今回の滞在の目的は、血管新生や歯髄再生が専門である Jacques E. Nör 教授（図3）の研究室で、研究の相談、セミナーにおける発表や、分子生物学の小実験を行うことであった。自分用の実験機も用意されており、毎日朝から晩まで実験に没頭することができ、とても有意義な一週間であった。また機会があれば、滞在してみたいものである。



図1. ミシガン大学歯学部



図2. ミシガン大学セントラルキャンパス



図3. Nör 教授と筆者

ヘルスサイエンス大学訪問

予防歯科学分野 瀧 口 知 彌

2011年3月25日からWHO 口腔保健協力センターの活動の一つである『国際口腔保健教育プログラムモデルの立案、国際口腔保健調査・研究、口腔保健政策立案の支援』の一貫として、カンボジアの口腔保健推進に関する、短期的、長期的研究計画の策定を支援するにあたっての協議を行うため、カンボジアヘルスサイエンス大学へ訪問いたしましたので報告いたします。

ヘルスサイエンス大学はカンボジアで唯一の歯科の大学院課程を持つ大学です。カンボジアの歯科医師の育成制度は7年制で1年の準備課程を経て2年間の基礎医学課程、更に2年間、臨床分野を学びます。そして日本でのCBT、OSCEに相当する試験の後、2年間の臨床実習を行い、一般歯科医師になるための国家試験を受験します。専門医になるには更に3年間の専門課程を経て国家試験に合格しなければなりません。

ヘルスサイエンス大学ではまず学部長のPhany先生を表敬訪問しました。ここではWHO、ヘルスサイエンス大学に加えてJICAと共同で行う学術研究についての話し合いが行われ、カンボジアではオーラルヘルスプロモーションが重要課題であり、歯学教育の中でも重点的に今後取り組んでいかなくてはならないとお話がありました。現在のカンボジアにはヘルスプロモーションの戦略を作るためのデータもなく、適切な口腔保健調査を実施できる歯科医師も僅かで、人材の育成が大きなカギと考えられます。そこでWHO 口腔保健協力センターはWHO 口腔保健戦略に則り、カンボジアで必要な口腔保健データを得るためのWHO 口腔保健セミナーを開催することを提案し、グローバルスタンダードで口腔保健調査ができる人材を育てることを目標にしました。WHO 口腔診査法による世界標準の規格化された調査を行うことで、信頼性の高いデータが得られるだけ



写真1 宮崎先生とPhany先生。Dean、Deanと呼ぶのでてっきりDean先生だと思っていたけどこのDeanは学長という意味らしい。ほら、歯のフッ素症の分類でDeanの指数ってあるじゃない？

でなく他国や地域間との比較が可能となり、今後のカンボジアにおける口腔保健政策の長期目標を設定することに役立ちます。

その後、地域歯科保健学教授のVutha先生とWHO 口腔保健セミナーについて具体的な打ち合わせを行い、カンボジア東部のMondolkiri県でパイロット調査を実施するにあたり2011年7月に教員や学生を対象にWHO 口腔診査法のトレーニングを行うことになりました。

翌日はPhnom Penh近郊のKook-toop小学校で行われたヘルスサイエンス大学の地域歯科保健実習を見学しました。大学の教員だけでなく海外NGOの歯科医師も指導者として参加し、学生に治療の技術を教えながら地域住民に対する治療が行なわれていました。大都市の近郊とはいえ歯科医療へのアクセスが限られており、抜歯がメインであるように見受けられました。地域住民たちの間では歯が痛ければ抜けばよいという考え方が強いようです。また、彼らの多くは歯ブラシ

で歯を磨くことすら知らない状態です。しかし、良好な口腔健康状態は歯科疾患のみならず全身の健康状態にも影響を及ぼします。だからこそ地域住民たちに対してまずは基本的な歯科保健教育を行うことが重要に思えました。

最後に短い期間ではありましたが今回の研修を

通して発展途上国での歯科保健教育や歯科治療の現状を見て学ぶことができたと思います。今回の研修の機会を下さった宮崎先生、葎原先生、小川先生、並びに医局員の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。



写真2 明るい太陽の日差しの下、椅子に患者を座らせて抜歯を行う。もちろんデンタルエックス線撮影装置なんて高価な機材はあろうはずもない。



写真3 途中経由した Suvarnabhumi 国際空港にて。こうした世界中からの支援があることは大変ありがたいことである。



●筆者紹介●

瀧口 知彌 D.D.S.

1984年9月28日生まれの27歳（じゅうろくさい）

金沢市出身

2010年3月卒。同4月より研修医として1年間過ごした後、2011年4月より予防歯科学分野で大学院生として「本業のプロデューサー業」の傍ら今井麻美のライブBDを糧として研究に励む日々を送っている。